

- 1 廿日市市教育振興基本計画【基本理念】より
「ふるさと廿日市」に愛着と誇りをもち、未来を担う人づくり

- 2 廿日市市学校教育ビジョンより
Well-beingを実現する学校づくり
～「安心・安全」「チャレンジ・自己実現」～

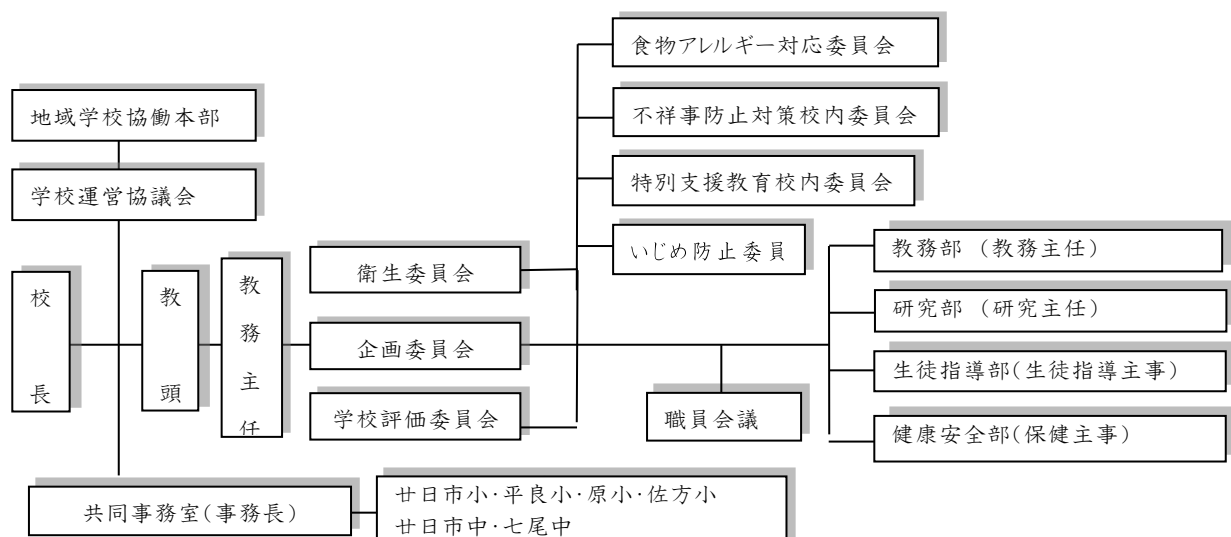


※Well-being（ウエルビーイング）

→心も身体も社会的にも「満たされた状態」で、
実感としての幸せ、心の豊かさを表す言葉

- 3 七尾中学校区の取組
めざす子ども像 「主体的に感じ考え表現する児童生徒」
研究テーマ 「自己を認識する力、選択する力、表現する力の育成」
柱1 学習者基点の能動的な深い学びづくり（ICTの活用）
柱2 特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学びの推進
柱3 自己実現を図るため、「共感的人間関係を育成し」、「自己存在感を与え」、信頼関係をベースにした自己決定の場を与える。
- 4 学校教育目標
夢をもち 自らチャレンジする 金剛寺っ子の育成
- 5 経営理念（ミッション・ビジョン）
「子どもの夢を育む」学校
～児童・教職員・保護者・地域の協働～
- 6 めざす学校像
- 課題発見・解決能力を育成し、「生きる力」を育む学校
 - 多様性を理解し、安心して学び、ともに高まる学校
 - 家庭・地域社会と連携し、信頼される学校
- 7 めざす子ども像
- 学びに挑戦する子
 - よりよい生活が創り出せる子
 - ルールやマナーが理解できる子
- 8 めざす教職員像
- 児童主体の教育活動を支援・推進し、一人一人のよさを伸ばす教職員
 - 同僚と協働し、お互いを高め合うことのできる教職員
 - 自らの立場・責任を自覚し、自律的に仕事にあたることのできる教職員

9 学校運営組織



10 今年度のキャッチフレーズ

「互いに認め合い 学び合い 高め合う チーム金剛寺」

多様性を認め合い協働しながら実践することを通して、私たち自身が同僚性の醸成し、未来を創る児童の手本となる姿を見せる。その上で児童の多様性も認め、高め合う集団を児童とともに創り出す。

11 重点目標

- (1) 学びに挑戦する子・個別最適な学びの実現に向けて高学年で目指す姿を明らかにし、各学年・各学級で段階的に取り組む

①「個別最適な学び」の推進（自律と協働）

- ・ 自分を知り自分の学びを調整する（自分の学び方を振り返り、改善し、次の学びに向かう）
低学年 学習の手引きにそって自分の得意な学び方を見付けながら学習を進める。
毎学期1単元以上設定
高学年 自ら問いをたて、解決に向けて自分に合った方法を模索しながら学習を進める。
毎学期1単元以上設定
- ・ 全単元を通して
→教科の見方考え方 目標（ゴール）・内容・計画・評価・ゴールに向かう問いの共有
→自分に合ったやり方と時間配分でやってみる時間の確保（選択と自己決定、学習環境づくり）
→必要感のあるゆるやかな協働で深まる学びの実感
- ・ 一人一台のクロームブックの積極的な活用
→学習の個性化を進めるためのAIドリル
→学びを共有、協働するためのclassroom、学習支援アプリ
→情報リテラシー 家庭への啓蒙

②個別最適な学びと関連付けた一斉指導の充実

- ・ 一斉指導における個別最適な学び
→見通し、ゴールの共有、選択肢と自己決定、ふりかえり、部分的自由進度学習
- ・ 学び方、まとめ方等の指導
→一斉指導と自由進度学習とを関連付けて教材研究や指導を行う

- ・話し合い活動において意見交換することにより、協働的な学びを体験させる手段
→分類 比較 関連付け ねらいを明確にした協働等

③総合的な学習の時間のグループテーマ、個人テーマの追究

- 異学年で協働して、同じテーマを追究する場
- 地域との連携 地域の教材化
- 自分の学びを作る機会、自分の学びを見つめる機会とする

④連続した学校と家庭の学び

- 宿題は自分で計画を立て、充実できる姿に向けて（発達段階に応じて）
- 予習、復習を自分の学びに位置付ける（自学、A I ドリル、タブレットの活用）

（２） よりよい生活が創り出せる子・・・特別活動、縦割り活動の充実

①児童会活動の充実

- ・委員会の存在意義を見直し、新たな活動を創造する
→楽しい行事を企画することで、自己有用感や貢献意識を育てる
- ・問題点解決に向けて話し合う代表委員会づくり
→学級活動の活性化

②異学年交流の活性化―多様性の理解

- ・縦割り活動 （掃除、児童会活動、総合的な学習の時間、金剛寺小まつり、自学勉強会等）
- ・キラリメッセージによる認め合い
- ・中学校区での生徒会児童会交流

（３） ルールやマナーが理解できる子・・・一人一人のよさを伸ばす指導の充実

①マナーやルールを理解一人と関わる中で当たり前のことは納得の上で徹底

- ・人を選ばない気持ちの良いあいさつ（学校・地域・家庭でのあいさつ）
- ・生活のきまりを機能させる（生徒指導規程の見直し）

②児童に寄り添った指導、多様化への対応

- ・安心して生活できる居場所づくり（受容的 傾聴）
- ・一人一人のよさを伸ばす指導

③生徒指導上の諸課題への対応

- ・早期発見・早期対応 管理職との連携・報告 組織的な対応

（４） 特別支援教育の視点を生かした取り組みの充実

①特別支援教育の推進 特別支援教育校内委員会の組織化

- 教室環境や授業におけるユニバーサルデザインの視点 合理的配慮
- 通級指導教室と学級との連携

②個の見取り（アセスメント）と支援の最適化

- アセスメントによる具体的な手立て

③関係機関との連携

- 特別支援教育アドバイザー、スクールカウンセラー、医療、療育

(5) 信頼される学校

①教育活動を積極的に発信

- ・学校便り、学級便り、ホームページの積極的な更新、各行事・自由参観など様々な手段で
- ・相手意識をもった連携による信頼関係の構築

②コミュニティスクールの積極的な活用

- ・学校運営協議会—学校と地域の連携の強化
- ・地域学校協働活動—学校支援 地域行事に参加・参画など

(6) 働き方改革の推進

①業務改善

→対話・情報共有によりムダを無くす 校務支援システムの活用

②時間の管理 定時退校日の確実な実践

→タイムマネジメント力の向上

③本校での働きがい改革の視点を明らかに

→「風通しのいい職場」「働きがい」